

# 沖繩周辺重要水産資源調査

喜屋武俊彦

本調査は国庫委託を受けて昭和47年度から実施しており、詳細は「昭和59年度沖縄周辺重要水産資源調査結果報告書」として報告した。

## 1. 目的および内容

本県周辺海域の主要魚種であるカツオ・タカサゴ類・アイゴ類について漁獲物を購入し、それらを通じて成長と年齢、成熟、産卵、系統群等の知見を得るため個体生態調査を実施し、また漁獲量の変動を知るため水揚地における漁獲量調査を実施し、資源量等を把握してこれらを対象とする漁業の管理および合理的生産体系の確立をはかる。

糸満でのひき縄は有漁日数、のべ水揚隻数、総水揚量とも減少したが、1日1隻当り水揚量は増加した。なお11月に喜屋武崎沖に表層浮魚礁（パヤオ）を設置した。

県漁連市場に水揚げされたタカサゴ類は前年並であった。月別には1-4月までは前年より悪く、5月以降は前年より良かった。

勝連漁協に水揚げされたアイゴ類は前年の約1.6倍で大巾に増加した。

ハマダイの水揚量は、県漁連市場で増加、那覇地区漁協市場、糸満漁協市場で前年並であった。

ハマフエフキの水揚量は、県漁連市場、那覇地区漁協市場で減少、糸満漁協市場で前年並であった。

スジアラの水揚量は、県漁連市場で減少、他の2市場では増加した。

アオリイカの水揚量は、県漁連市場で増加、那覇地区漁協市場で前年並、糸満漁協市場で減少した。

なおこの調査を進めるにあたり、標本魚の購入、セリ帳の集計に便宜を与えられた各関係漁協に厚く御礼を述べたい。

## 2. 要約

(1) 糸満のひき縄、県漁連のタカサゴ類、勝連のアイゴ類の水揚量調査を実施した。タカサゴ類とシモフリアイゴについては魚体を購入して個体生態調査（体長、体重、胃内容物、生殖腺調査）を実施した。

(2) 関連調査として県漁連、那覇地区漁協、糸満漁協の3市場のセリ帳より、ハマダイ、ハマフエフキ、スジアラ、アオリイカの水揚量調査を実施した。

(3) 糸満のひき縄の総水揚量は39.1トン、前年比76%で減少した。（図-1）。1日1隻当り水揚量は62kg、前年比172%で大巾に増加した。魚種別水揚量をみると、カツオ類は2.0トンで大巾に減少、マグロ類は3.2トンで大巾に減少、サワラ類は4.7トンで大巾に減少、シイラは0.9トンで大巾に減少、カジキ類は28.2トンで前年並であった。

(4) 県漁連市場に水揚げされたタカサゴ類は503トン、前年比108%でほぼ前年並、1日1隻当

り水揚量は 901kg で増加した。水揚量は昭和54年をピークに減少傾向、1日1隻当り水揚量は昭和53年頃から横ばい傾向であるが、今年は少し上向いてきた。(図-2)

(5) タカサゴの体長・体重測定を年11回、780尾、胃内容物、生殖腺調査を196尾実施した。生殖腺指数のピークは5月にみられた。クマササハナムロの体長、体重測定を年11回、551尾、胃内容物、生殖腺調査を214尾実施した。生殖腺指数のピークは3月にみられた。イッセンタカサゴの体長、体重測定、胃内容物、生殖腺調査を年3回、25尾実施した。ニセタカサゴの体長、体重測定を年9回、160尾、胃内容物、生殖腺調査を105尾実施した。

(6) 勝連漁協に水揚げされたシモフリアイゴは13.3トン、前年比156%で大巾に増加した。1日1隻当り水揚量は7.4kgで前年より増加した。

(7) シモフリアイゴの体長、体重測定を年9回、393尾、胃内容物、生殖腺調査を180尾実施した。生殖腺指数のピークは5月にみられた。

(8) ハマダイの県漁連における水揚量は218トン、前年比136%で増加、1日1隻当り水揚量は74.4kgで若干増加した。水揚量のピークは7月にみられた。那覇地区漁協の水揚量は95トン、前年比100%で前年並、1日1隻当り水揚量は118.9kg、前年比92%で若干減少した。水揚量のピークは9月にみられた。糸満漁協の水揚量は8.8トン、前年比98%で前年並、1日1隻当り水揚量は22.5kgで減少した。水揚量のピークは9月にみられた。(図-3)

(9) ハマフエフキの県漁連における水揚量は34トン、前年比87%で減少、1日1隻当り水揚量は9.3kgで減少した。水揚量のピークは9月にみられた。那覇地区漁協の水揚量は4.5トン、前年比57%で大巾に減少、1日1隻当り水揚量は9.1kgで減少した。水揚量のピークは6月にみられた。糸満漁協の水揚量は23トン、前年比93%ではほぼ前年並、1日1隻当り水揚量は16.2kgで前年並であった。水揚量のピークは5月にみられた。(図-4)

(10) スジアラの県漁連における水揚量は60トン、前年比77%で減少、1日1隻当り水揚量は7.8kgで減少した。水揚量のピークは11月にみられた。那覇地区漁協の水揚量は7トン、前年比110%で若干増加、1日1隻当り水揚量は8.3kgで減少した。水揚量のピークは7月にみられた。糸満漁協の水揚量は14トン、前年比133%で増加、1日1隻当り水揚量は12.7kgで若干増加した。水揚量のピークは9月にみられた。(図-5)

(11) アオリイカの県漁連における水揚量は67トン、前年比122%で増加、1日1隻当り水揚量は24.9kgで増加した。水揚量のピークは11月にみられた。那覇地区漁協の水揚量は5トン、前年比104%で前年並、1日1隻当り水揚量は6.7kgで前年並であった。水揚量のピークは11月にみられた。糸満漁協の水揚量は4.5トン、前年比77%で減少、1日1隻当り水揚量は5.3kgで前年並であった。水揚量のピークは12月にみられた。(図-6)

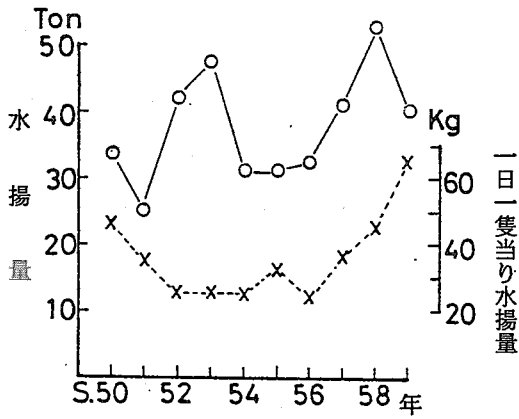


図-1 ひき縄水揚量、1日1隻当り水揚量  
経年変化 (糸満)

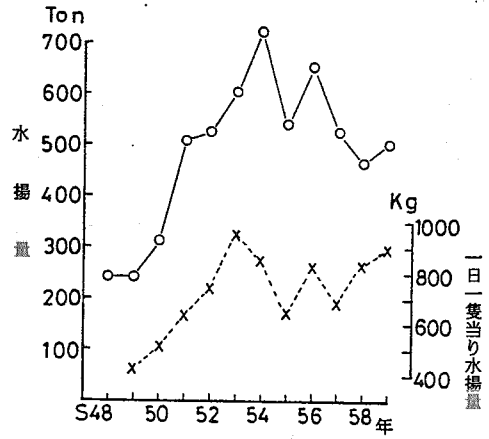


図-2 追込網によるタカサゴ類水揚量  
1日1隻当り水揚量経年変化  
(県漁連)

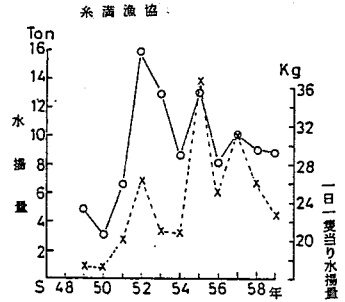
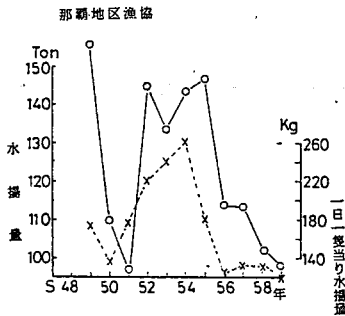
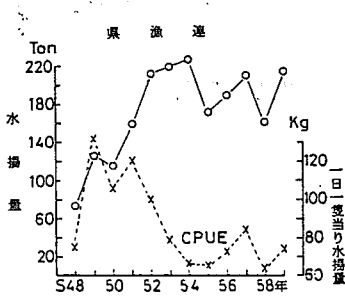


図-3 3市場におけるハマダイ水揚量、1日1隻当り水揚量経年変化

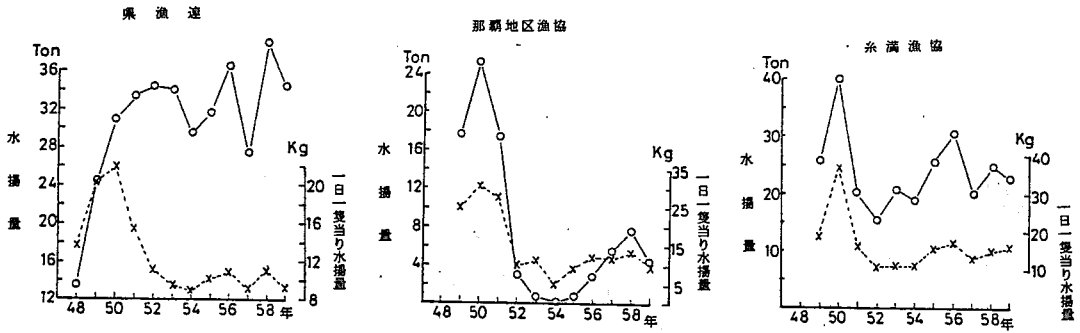


図-4 3市場におけるハマフエキ水揚量、1日1隻当り水揚量経年変化

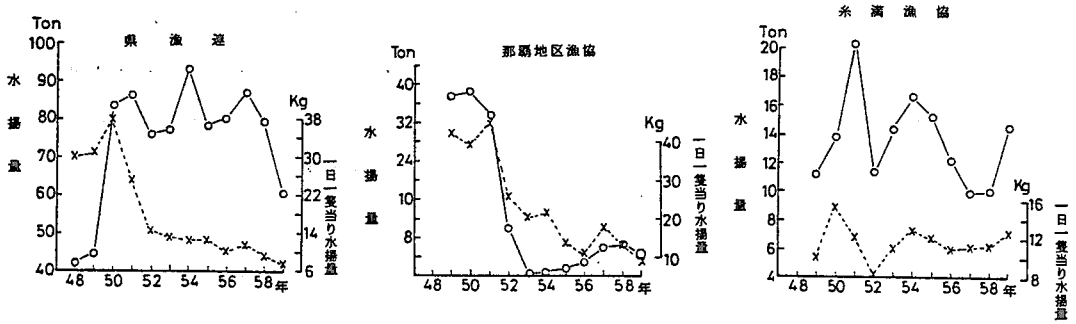


図-5 3市場におけるスジアラ水揚量、1日1隻当り水揚量経年変化

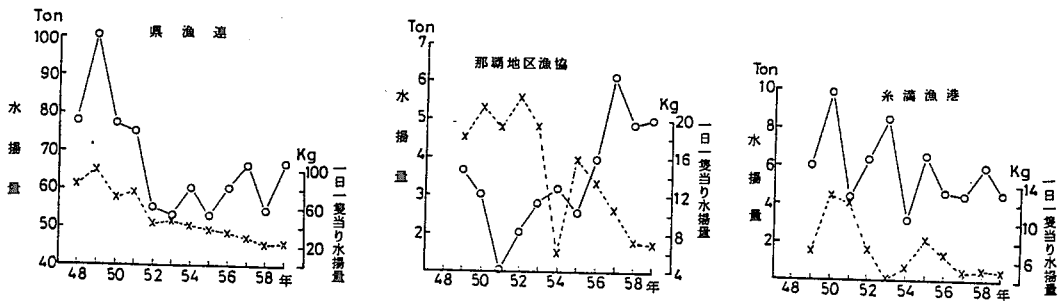


図-6 3市場におけるアオリイカ水揚量、1日1隻当り水揚量経年変化